

令和4年度 第2回 県政改革審議会 議事要旨

1 日 時

令和4年11月16日（水）10：00～11：40

2 場 所

兵庫県公館 第1会議室

3 出席者

(1) 委員

上村会長、石川委員、勝沼委員、門委員、木田委員、佐伯委員、澤本委員、摺河委員、福永委員、山名委員、吉井委員（11名）

(2) 県

齋藤知事、片山副知事、遠藤防災監兼危機管理部長、八尋技監、小橋新県政推進室長兼総務部長、梶本企画部長、稲木財務部長、城県民生活部長、生安福祉部長、山下保健医療部長、竹村産業労働部長、萬谷農林水産部長、菅環境部長、杉浦土木部長、西谷まちづくり部長、小畑会計管理者、成田企業庁次長、杉村病院事業管理者、藤原教育長（19名）

4 議事

(1) 審議事項

ひょうご事業改善レビューの取組状況について

(2) 報告事項

①令和5年度の予算編成について

②第二期兵庫県地域創生戦略の中間見直しについて

5 発言要旨（主なもの）

(1) ひょうご事業改善レビューについて

（事業改善レビューの取組について）

- ・外部の知見者から意見をもらい施策の改善を図るという点でよい取組である。
- ・この取組はイノベーションを起こすことがミッションである。最終的には事業改善に関して職員の意識改革につなげてほしい。
- ・時代の流れの中で、事業の目標はどんどん変えていかなければならない。時代に取り残されないよう、スモールスタートでトライアンドエラーを繰り返しながら調整をおこなっていくことも重要である。
- ・本審議会の意見はレビューの取組に反映していただきたい。

（レビューの対象について）

- ・対象事業の施策における位置づけが分かりにくいのではないかと。将来的には施策レベルでのレビューも検討してはどうか。
- ・対象事業について、教育分野等、公私協調して進めていくべき事業についても対象としていつていただきたい。

（外部委員会意見について）

- ・レビュー実施後のフォローアップが大切である。意見をポジティブに捉え、アクションにつなげていくことを、各部が認識することで効果がでてくるのではないかと。
- ・外部委員会意見は横展開すべきである。また、限られた財源の中で施策効果を高めるために、部局横断で取組むことや、市町等とも協力して取組むことを心がけ

てほしい。

(結果について)

- ・事業改善の結果が数字で見えてくることは楽しみである。
- ・改善結果とあわせ、それによって県政全体がどのような方向性を目指そうとしているのか県民にわかりやすく示していただきたい。
- ・数字については、なぜその数字が出てきたのか裏側の分析も必要である。

(2) 県政改革の推進について

(県政推進全般)

- ・コロナ禍や物価高騰等で困窮する事業者や県民の支援に取り組んでいただきたい。
- ・企業の成長分野への投資を促し、人や企業を兵庫県へ呼び込むことで、地域経済の持続的な発展に向けた取組を期待する。
- ・プラットフォーム等、公民連携を本当の意味で進めていくためには、コンテンツを充実させるなど、実際に動かすための仕掛けづくりが重要である。
- ・ポストコロナ時代にふさわしい産業構造への転換にあたっては、誰も取り残さない社会をめざすため、市場経済だけに目を向けるのではなく、コミュニティビジネス等も視野に入れて検討すべきである。また、就労に困難を抱える方が、必要なサポートを受け、他の従業員と共に働いている社会的企業であるソーシャルファームの創設や活動の促進も検討いただきたい。

(人口減少対策)

- ・人口減少を迎える中で、外資系企業や外国人材の誘致も必要。インフラ等のアップデートやアートや音楽等のエンターテインメント要素を重視することで、高度外国人材の呼び込み等にも取り組んでいただきたい。
- ・中山間地域の人口増のためには、インフラ整備や地域の担い手の確保・育成が重要ではないか。
- ・公立高校のあり方を検討するにあたっては、他県から人を呼び込めるような学びの環境の充実も進めていただきたい。
- ・人口減少に立ち向かうには性別や年齢を問わずに伸び伸びと力を発揮できる環境を整備すべきではないか。地位貢献型の企業やスタートアップの支援を行うことで、地域に自分の居場所があり、それが同時に社会貢献にも役立つという循環ができれば、新たな人材の定着につながるのではないか。
- ・フルタイムで働く子育て世帯だけでなく、パートタイムで働く世帯への支援もより取り組んでいただきたい。
- ・人材確保は中小企業にとって大きな課題。働き方改革について、官民連携で取り組んでいただきたい。

(その他)

- ・県庁舎整備の方向性については、早期に方向性を示していただきたい。
- ・県民局は行政の現場であると考えているので、その位置づけは維持していただきたい。
- ・審議会のあり方、会議の方法等についても検討をいただきたい。

(3) 総括

- ・事業改善レビューの対象事業は、37事業とスモールスタートではあるので、外部委員会からの意見等は他の事業にも波及させていただきたい。また、レビュー後のフ

- フォローアップも重要であるので、しっかり取組んでいただきたい。
- ・今年度は事業改善レビューの初年度ということで県政改革審議会に実施内容を報告いただいた。来年度以降、実施内容を報告いただく手段については、書面での報告等、簡略化を検討いただいてもいいのではないかと。

以 上